

令和4年10月吉日

各位

横浜市立市民病院 産婦人科
科長 茂田 博行

謹啓 紅葉の候、皆様ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

いつも患者様をご紹介いただき、また、当院から紹介させていただいた患者様を診ていただき、ありがとうございます。

さて、当院主催による病診連携連絡会を下記のとおり開催いたします。今回は、当院における低侵襲手術についてご報告させていただく予定です。

当院ではより低侵襲な手術を提供することを重視しており、子宮鏡手術、腹腔鏡手術、ダヴィンチ手術を用いて難易度の高い良性疾患に対応しています。また、悪性腫瘍に対しても、後腹膜鏡下傍大動脈リンパ節郭清や腹腔鏡下広汎子宮全摘などを積極的に行っています。

ロボット手術を利用した子宮全摘術では、以下のような利点が報告されています。すなわち、ロボットのアームが関節のように動くため操作性が高い、3次元の視野が得られる、出血量が少ない、多臓器損傷の頻度が低い、開腹になる頻度が低い、入院日数が短い、などです。また、術者は座って手術を行うため、疲労を感じにくいメリットもあります。当院ではすでに全国でも有数の婦人科ロボット手術数となっています。

さらに、当院では自然な開口部（orifice）を用いた低侵襲手術、natural orifice transluminal endoscopic surgery (NOTES)も行っています。これには、経口的、経直腸的、経尿道的な方法などがありますが、一番一般的なものは経膈的な方法です。腹壁に傷のできない無瘢痕手術であり、これまでに胆嚢摘出、虫垂切除、腎臓摘出のほか、様々な婦人科疾患に応用されています。これまでに報告された婦人科術式としては、子宮全摘、卵巣嚢腫摘出、付属器摘出、筋腫核出などがあります。NOTESではすべて腔式に操作を行い腹壁からの操作がないため、きわめて低侵襲であるといえ、今後 transvaginal NOTES の適応はさらに拡大していくものと思われます。

令和4年度 第1回横浜市立市民病院産婦人科病診連携連絡会

～当院における低侵襲手術について～

日時：令和4年11月14日（月） 19：00～21：00

会場：横浜市立市民病院管理棟4階 講堂

【プログラム】

19:00 開会・挨拶

横浜市立市民病院 産婦人科 科長 茂田 博行

19:05 当院における低侵襲手術について

婦人科内視鏡手術センター センター長 今井 一章

20:05 当院における COVID-19 感染妊婦への対応について

産婦人科 医長 高見 美緒

20:25 全体総括

20:55 閉会・挨拶

21:00 終了

※以下の単位を取得できます。e 医学会カードをご持参ください。また、当日、e 医学会カードをお忘れの会員の方は手動検索受付のため、身分証明書をご提示ください。

- ・日本産科婦人科学会専門医参加単位（＝日産婦専門医シール） 5 単位
- ・日本専門医機構 参加単位 2 単位、産婦人科領域講習 1 単位
- ・日本産婦人科医会研修参加証を発行
- ・日本医師会生涯教育講座カリキュラムコード 7、10、12